

I. 平成 30 年度の運営総括及び来期の課題

「白根南児童館」は今年度で開館 4 年目を迎えることができた。大きな行事に加え、小学生、中学生で来館者数の増加がみられた。また、地域の方々、保護者の方々、意欲的な小学生ボランティアの協力が得られ、児童館が地域に定着してきた。

1. 乳幼児・保護者向け事業

(1) 総括

毎月、定例行事である『すくすくひろば』、『絵本タイム』、『作って遊ぼう』を企画・運営している。親子のふれあい遊びや身体を動かすこと、絵本読み聞かせ、制作活動などで、子どもの成長を確認できる場となっている。

保育園帰りの幼児の来館や、支援センターでの保護者同士の情報交換による来館、『BP 講座』に参加した母親の来館などがあった。南区だけでなく、広い地域からの来館がみられる。土曜日・日曜日・祝日も開館しているため、日頃支援センターに通う近隣の加茂市、三条市、田上町の方々や、父親や祖父母の来館がある。また、職員による育児相談や母親同士の交流を求めている保護者がいる。職員は子どもを遊ばせながら保護者と会話をし、日頃の育児の悩みなどの傾聴に努めている。また、友達を求める母親への仲立ち役としての役割を果たしている。

保護者向けの行事として、『子育てオーエンジャー☆みなみ』との連携による『わくわくひろば』や『ママタイム』を開催した。今年度も、来館する幼児や小学生の保護者、地域の方が得意な内容を実施し、講師として招いた。ハンドトリートメントやヘッドリフレに加え、レザークラフトやハンカチ作り、カイロプラクティック、足つぼマッサージ、コンサートなど、充実した内容となった。母親たちや地域の方々がリラックスできる時間を楽しんでもらうことに加え、それぞれの自己実現の機会にもなった。

また、今年度は新しい試みとして、「春の文化祭」を開催した。次年度のはるまつりまで開催時期を伸ばし、同時開催をした。近隣に住んでいる地域の方々にご協力いただき、作品展示を行った。日頃作っているものを展示させていただき、とても好評であった。今後も地域の居場所や、地域の活躍の場を作る上で、継続していきたい。

移動児童館に出向いた地域の保育園からは、バスを利用した保育園児の来館が今年度もあり、相互の交流を図ることができている。

公民館との共催で、会場を白根南児童館としたコンサートも実施し、連携を図っている。

(2) 課題

今年度は地域の母親の特技を活かせる場づくりと地域の方々と連携を図った企画を強化し、実施した。今後も継続し、保護者の居場所や活躍の場となるよう働きかけていきたい。また、保育園入園や子どもの発達、家庭環境などについての保護者の悩みについて情報収集し、保護者と子どもの拠り所となる児童館を目指したい。今後も、他所に出向いた触れ合いや、児童館の情報発信を積極的に行っていく。

昨年度、今年度は BP 講座を児童館で行い、親しみの持てる場となり利用に繋がった。来年度も実施予定であり、認知度が高まるようにしていく。

2. 小学生事業

(1) 総括

幼児の頃から保護者と来館している子どもが、小学生となつての来館が増加し、また、低学年から中学年になつた小学生の来館が増加した。平日、土日の小学生の来館は、定期的に来館してくれる常連の子どもが多い。児童館に来れば誰かいるということや、約束をして来館することがある。長期休みでは、放課後児童クラブ『茨っ子クラブ』の小学生が午前午後と来館し、賑やかさを増し、また、帰省中の小学生の来館もみられた。移動児童館での放課後児童クラブの利用も需要があり、定期的に行っている。

クラブ活動は今年度も継続して活発に行い、小学生の定着した来館に繋がった。また、保護者からの期待も大きい。今年度は『手づくりクラブ』に代わり、『南っ子クラブ』というクラブ活動を行った。行事の企画や実施など、自主的な活動を重視した。コミュニティ協議会の助成金や連携が難しいこともあった。子ども会議やボランティアとしての活動が自然な形で実施できたことは大きな成果である。茨曾根小学校だけでなく、庄瀬小学校、新飯田小学校、月潟小学校などの子どもが参加してくれた。初年度から活動している『音楽クラブ』では、今年度も『茨っ子クラブ』や地域の小学生がメンバーとなり、茨曾根の『なつまつり』や『敬老会』、『桃の花見茶会』に参加し、音楽発表を行った。地域の方々に日頃の練習の成果を披露できた。保護者の方々の協力が有難い。

また、一輪車検定やけん玉検定などを不定期に行っている。日々の練習の成果を試す機会、目標に向かって努力する姿勢を持つきっかけとなっている。

はるまつりやあきまつりでは、子どもたちが意欲的にボランティアとしての役割を果たした。日頃から子ども達が意見を出し合い、話し合って協力していた。まつりのオ

オープニングにて発表をすることになった小学生は、やりたいことを実現するために、ダンスや一輪車の練習を一生懸命行っていた。また、お化け屋敷のブースを担当したり、準備を手伝ったりして、自主的で意欲的な参加が多くあった。ボランティアとして保護者の方が来てくださったり、本番も協力をいただいたりして有難かった。

長期休みには、地域の方を講師に招き、夏休み工作で陶芸の器づくり、春休み工作ではクラフト工作を行った。また、今年度も白根公民館との連携で、茨曾根小学校文化祭にて作品展示をさせていただいた。そして白根南児童館の初の試みとして春の文化祭で展示を行った。子どもは表現する場ができ、また保護者や地域からも関心を持っていただけた。

食推の方との共催で、クリスマスクッキングを行った。白根健康福祉センターにて行い、子ども達は調理の機会を楽しみ、保護者の方も日頃できないことを経験させることに満足されていた。今後も希望があり、実施したい。

お正月お楽しみ会では南っ子クラブの小学生が、幼児向け行事にて司会やブースを担当した。とても頼もしく、役割を果たしていた。また、小学生向けで実施した豆まきでも、司会やゲームを担当し、盛り上げていた。定番となっている宝探しゲームも楽しんでた。

避難訓練では、消防士の方が来られ、消防車の見学や消火器訓練を行った。茨っ子クラブの小学生や、他に来館している子ども、親子等、スムーズに動くことができていた。また、予告なく実施したが、日頃からの訓練で行動できる子ども達が素晴らしかった。様々な訓練を継続して行っていきたい。

また、今年度は新しい試みとして、「春の文化祭」を開催した。次年度のはるまつりまで開催時期を伸ばし、同時開催をした。近隣に住んでいる地域の方々とともに、小学生が参加し、作品展示を行った。日頃作っているものを展示し、とても好評であった。今後も地域の居場所や、地域の活躍の場を作る上で、継続していきたい。

(2) 課題

小学生は、低学年の来館が多いが、高学年が少ない。日頃来館している低学年、中学年の小学生が、今後、高学年や中高生になっても継続して来館できるような環境を作っていきたい。子どもの意見を取り入れた遊ぶ道具の購入や企画などの工夫が必要であると考える。身体を動かすことはもちろん、子どもの主体性を育む内容や、じっくり考える内容、ゲーム性のある高学年向けの行事の企画を実施したり、勉強・宿題をする場

の提供をしたりして、高学年も継続して楽しめ、居心地のよい居場所にしていく。現在、行事では小学生ボランティアの意欲的な参加があり、さらに保護者の方の参加が徐々に増えてきている。今後も地域の方々との連携を強めていき、クラブ活動やその他の行事を企画し、一緒に作り上げて充実させていく。

避難訓練では、火災だけでなく、地震や津波、不審者などの対応についても共有していきたい。

3. 中高生事業

(1) 総括

中学生の時から来館していた高校生女子 2 名が時々来館し、職員との会話を楽しんでいた。また、中学生が休みの日に来館し、友人と卓球やミニバドミントン、バレーなどで遊ぶ姿がみられた。行事では、『放課後等デイサービス ふあふ』の中高生がイラストコンテストに参加してくれ、作品の投票と展示を見るののために来館した。移動児童館では、年 3 回の昼休みの移動児童館を実施し、中学生がやりたい内容（レジン工作等）を行った。中学校との連携で、サマーボランティアや職場体験などで夏休みに幼児や小学生との異年齢交流ができた。その中で、小学生向けの行事の企画などを行い、自主性を重視した活動を行った。

(2) 課題

今後、白南中学校での移動児童館では、中学校の行事に参加し連携することを、学校側、校長先生と話し合っている。それにより、子どもたちの自主的な活動に児童館が関わることができ、利用促進と認知度が上がる。そして、ボランティアの場としても利用してもらうことにも繋がる。中学校側としても地域との連携は重要であると考えている。生徒の自主的な活動やボランティア活動を行う機会を今後も増やし、移動児童館をきっかけに、児童館職員と関わり、児童館を居場所として活用してほしい。幼児・小学生の頃から来館している子どもが、中高生になってからも来館することに繋がるよう、企画・実施、環境を整備していきたい。卓球大会や調理などの行事企画への参加やボランティア活動の提案をしていく。中学生との繋がりに加えて、高校生、大学生、専門学校生は、実習やボランティア、アルバイトなどでの関わりが既にあるため、今後も継続し、より発展的な活動をしていきたい。

4. 移動児童館

(1) 総括

白根南児童館の特徴である移動児童館では、新たに新飯田小学校での市小研の日の放課後に年 3 回行った。また、今年度の白南中学校での昼休みの移動児童館は自主性大事にして話し合いを行い、年 3 回実施した。『放課後等デイサービス ふあぷ』と白根第二、月潟、白井、根岸などの『ひまわりクラブ』での実施があった。また、近隣の茨曾根小学校にて昼休み、庄瀬小学校にてバス待ちの放課後の時間での実施を継続して行った。そよ風保育園、月潟保育園、新飯田保育園での読み聞かせや講師を招いてのクリスマスコンサートやリトミックを行った。子育て支援センターふあぷでは読み聞かせとハンドマッサージなど、継続した活動ができた。子どもや保護者、地域からの要請、ニーズに可能な限り応えるようにしている。保育園の移動児童館で顔見知りになった子どもが来館してくれたり、支援センターで出会う保護者が児童館を利用していたり、交流のきっかけとなっている。移動児童館の定着が児童館の認知、来館に繋がっていることを実感する。

小学校の文化祭では作品展示で今年度も参加することができた。また、小学生を中心としたクラブ活動において、夏まつりや敬老会、桃の花見茶会などの行事に参加することで地域との連携が図れている。食推の方との共催で、白根地域生活センターに場所を移してのクリスマスクッキングも行った。参加する際に、茨っ子クラブや保護者の方、ひまわりクラブ、公民館、コミュニティー協議会、地域の方々の協力が得られた。児童館への理解が深まってきていることが嬉しく、受け入れていただけている事が有難い。今後も継続し、子どもが地域で発表したり表現したりする場、地域の方が集える場として活用してもらえるようにしていく。

(3) 課題

幼児向けに関しては、ボランティアや講師の方々の協力に加えて、職員の技術向上に努め、体制を作っていく。地域の子育て支援の先輩方である「子育てオーエンジャー☆みなみ」の方々との関係性も大事にしていく。

また、小学生向けでは、来年度から新飯田地域と庄瀬地域に、地域生活センターでの放課後児童クラブが設置されるとのこと。さっそく新飯田地域の「げんきっず」の保護者の代表から、移動児童館の要請がきているので、可能な限り連携、協力をしていきたい。庄瀬地域ではコミュニティー協議会、新飯田地域ではボランティアサークルである「ふおう♡はーと」との関わりができればと考えている。また、白根公民館の方にも行

事のお誘いがあり、エリアは違うが、「きたもんクラブ」の方々にもおまつりではご協力いただいている。今後も良好な関係性を大切にし、継続していきたい。

中高生向けについては、来年度もこれまでの内容を見直し、改善、継続しながら、移動児童館だけでなく、行事やボランティアなどで積極的に連携を取り、内容を充実させていきたい。例えば学校行事である合唱祭、文化祭への参加や、児童館行事のクッキングや卓球大会、ボランティア活動、学習などの企画参加等を考えている。

来年度も、地域に根差した活動とネットワーク作り、職員のより良いチームワーク作りの取り組みをしていきたいと考えている。